

**平成26年度図書館重点事業
実施報告**

東村山市立図書館

平成26年度図書館運営方針

○ 運営方針

市民の多様な学習スタイルや読書要求に応える情報提供の充実に努めるとともに、東村山市子ども読書活動推進計画を推進する。また、読書に関わるボランティア活動、地域活動を支援し、自治意識を育む生涯学習環境の整備に努める。

○ 重点事業

1 第2次子ども読書活動推進計画の総括並びに第3次計画の策定

子どもに関わる部署や関連施設との連携、子どもの読書に関わる市民活動への支援等を継続しつつ、第2次計画の最終年度としての総括を行い、第3次計画の策定につなげる。

- (1) 第3次子ども読書活動推進計画の策定
- (2) 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (3) 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援

2 資料提供の充実

多様な市民ニーズに対応できる資料をバランスよく収集し、提供方法を工夫することにより、暮らしに役立つ情報提供の充実に努める。

- (1) インターネットを活用した情報提供の充実
- (2) 大活字本や音訳CDの利用促進
- (3) 視覚障がい者等へのデージーによる情報提供の充実

3 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。

4 職員体制の充実

本についての相談や調べものについての質問に、的確な対応ができるような人材の育成を図る。

- (1) 業務内容に応じた各種職員研修の充実
- (2) 市民サービス向上に向けた接遇研修の実施

5 図書館開館40周年記念事業の実施

市民との協働を図りつつ進めてきた図書館事業について、市民の理解を仰ぎ、利用促進につなげるために館内展示や資料集の作成を行う。

1. 「第2次子ども読書活動推進計画」の総括並びに第3次計画の策定

1-1. 第3次子ども読書活動推進計画の策定（新規）

取り組み内容と実績

「第2次子ども読書活動推進計画」（平成22年度～26年度）の総括を行うとともに、「第3次子ども読書活動推進計画」（平成27年度～32年度）を平成27年3月に策定した。

<アンケートによる意見聞き取り>

- ◆ 市立図書館に来館した子どもと保護者 1209人
- ◆ 子どもの読書に関わる市民団体 11か所
- ◆ 市立小中学校、保育園、児童館等の子ども関連施設 138か所 など

<会議での意見聞き取り>

- ◆ 「東村山子ども読書連絡会」・「図書館協議会」において意見聞き取り

<庁内の計画策定体制>

- ◆ 「子ども関連部署庁内連絡会」2回開催
- ◆ 「子ども関連部署庁内担当者会」1回開催
- ◆ 「学校図書館推進部会」1回開催

「第3次計画」（案）に対する市民意見募集（パブリックコメント）

- ◆ 募集期間：平成26年11月15日（土）～12月5日（金）
- ◆ 応募人数：7人
- ◆ 意見内容：18件

成果

第2次計画を振り返りながら第3次計画策定に繋げることができるように、子どもの読書に関わる市民（個人・団体）、子ども関連施設から意見を聞き取った。今回は計画の主役である子どもからもアンケートにより意見を聞き取った。このように広く意見を聞き取り、市民の皆さんと共に「第3次計画」を作ることができた。

課題

計画策定は段階的に手順を踏んで進めたが、子どもの読書に関する総合的な計画としての調整には時間がかかるため、次期計画策定時には更に余裕を持ったスケジュールを組んでいきたい。

図書館協議会からの意見

- ◆ 地域の実情に応じて、地道によくやっている。
- ◆ 庁内連絡会を設け、関係部署とコミュニケーションする場があるのは望ましいことであり、そこからの意見のくみ取りを今後も大切にしてほしい。

1-2. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

1. 支援事業

第4次東村山市総合計画実施計画「子ども読書活動ボランティア養成事業」

(1) 東村山子ども読書連絡会 (2回 参加人数 延べ60人)

市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として年2回開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換などを行った。

(2) 講座や研修会等の開催

- ◆ 「ボランティアのための『子どもと本を知る』講座」(4回 参加人数 延べ176人)
専門家による2講座のほか、子育て支援課職員。読み聞かせや学校図書館のボランティア協力による2講座を開催した。
- ◆ 「東村山うちでのこづち」のおはなし会・講座開催への支援を行った。
- ◆ 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会 (3回 参加人数 延べ52人)
乳幼児への読み聞かせで使うおすすめ本の紹介や、情報交換を行った。
- ◆ 読み聞かせ入門講座 (1回 参加人数 17人)
要請に応じて小学校に職員が出向き、保護者対象に読み聞かせの基礎知識を伝えた。
- ◆ その他、図書修理講習会の開催、『学校図書館の手引き』(管理・運営マニュアル)の更新など

2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- ◆ 乳幼児への読み聞かせ 38か所 327回
3～4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- ◆ 小学生への読み聞かせ (1校 33回)
- ◆ 各種関連団体との取り組み（おはなし会、豆本づくり講習、調べ学習講座等）

成果

- ◆ 子どもの読書に関わる市民に対して、活動の状況に応じた講座・交流会の実施や、様々な情報提供等、継続的な支援を行い、ボランティア活動が充実したものとなった。
- ◆ ボランティア派遣については、派遣先・ボランティアとの連絡調整を密に行い、安定的稼働ができています。

課題

ボランティア派遣事業を安定的・継続的に実施していくためには、研修等によるボランティア活動の質の向上と新規募集での人数の確保が必要である。また、派遣先との連絡調整やボランティアに合った派遣先の選択など、全体をコーディネートできる職員の人材育成が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 大変よく気配りされているので是非長続きさせてもらいたい。
- ◆ 毎回初心者向けの講座を設けてほしい。
- ◆ 講座だけでなく、子ども読書連絡会などでボランティアのつながりを上手に作ってくれているのが良い。

1-3. 学校での読書推進に向けた学校図書館専任司書の育成および支援（継続）

取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」）の通年配置3年目となり、図書館から学校司書への支援の質が深まった。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12名による2校兼務の体制で、各校には週2日、1日5時間の勤務。うち2名は支援担当として週2日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

<研修等>

- 学校司書の研修会（3回）のほか、学校図書館担当者連絡会（3回）を実施、うち1回は合同で行い両者の連携を図った。また、第3次子ども読書活動推進計画策定に向けて学校現場の実態把握と意見聞き取りを行った。
- 学校図書館ボランティアへの研修は、「ボランティアのための『子どもと本』を知る講座」の1講座「学校図書館ボランティアってなあに？」として実施した。
- 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。

<支援>

- 毎月図書館だよりのコンテンツとして、教科書の進度に合わせた情報を提供したほか、図鑑セットや百科事典を貸し出した。
- 25年度に引き続き学校図書館分類指導用「分類ゲーム」を作る会を開催し、ボランティアの協力のもと15セット完成させ、全小学校へ配布した。
- 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出、購入図書選定の相談受付、ボランティアへの修理講習等を実施した。

学校への図書貸出件数 687 件（17,310 冊）（25 年度 647 件 15,547 冊）

成果

- 通年配置3年目となり、学校司書支援業務の質が深まった。
- 通年配置3年目で教員と学校司書の連携による授業が増え、読書活動が充実した。
- 分類指導用「分類ゲーム」セットを小学全校に配布したことで国語や図書委員会での活用が増えた。

課題

学校司書がどのクラスの授業にも関わり、学校全体の読書推進に寄与するには、1校週2日の配置では充分とは言えない。また、臨時職員であるため、安定的な任用体制が取れていない。配置の拡大や任用体制の安定化に向け、ますます工夫する必要がある。

図書館協議会からの意見

- 各校1名の配置を実現してほしい。
- 合同で研修を行ったのは、情報の共有や相互理解が進み意義があるので、継続してもらいたい。
- 学校図書館担当教諭と学校司書の連携が深められるように、打ち合わせの時間が必要であることへの学校側の意識化が必要である。
- 図書館が研修や支援を担うのは望ましいことであるが、**図書館業務の体制への影響については配慮が必要である。**

2. 資料提供の充実

2-1. インターネットを活用した情報提供の充実（継続）

取り組み内容・実績

第4次東村山市総合計画実施計画

「インターネットを活用した中央図書館における情報提供の充実」

1. 利用者用インターネットパソコンの利用

- ◆ 中央図書館にインターネット検索用パソコン2台、オンラインデータベース用検索専用パソコン1台は、利用2年目で日常的な利用が定着した。

26年度実績 1,684回（25年度実績 374回）

* 25年度は10月～3月の半年間の実績

2. オンラインデータベースの拡大

- ◆ 昨年度の7種類に加えて、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」に参加することができた。国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、**公共図書館用に公開した131万件のデジタル化資料を、中央図書館内の利用者用パソコンから閲覧、複写ができる環境を整備し、サービス開始直後から活用されている。**
- ◆ 「国立国会図書館デジタル化送信サービス」導入にあたっては、職員向けにサービスの概要・意義、操作方法などの研修を行った。

3. PR

- ◆ 新サービス導入にあたって、図書館HP、館内ポスター・チラシによってPRを行った。

成果

- ◆ 図書館HPや館内ポスター等のPRにより、パソコン利用が定着してきている。パソコン環境にない利用者も気軽にインターネット情報が利用でき、情報収集の拡大を図ることができた。
- ◆ さらに「国立国会図書館デジタル化送信サービス」を導入することにより、**絶版等の理由で入手が困難な資料について国立国会図書館がデジタル化した資料を、同図書館へ出向かなくても館内で即時に閲覧でき、さらに画面上で文字を拡大できるため高齢者にも見やすいと好評で、利便性向上を図ることができた。**レファレンス調査などですぐに資料内容確認が可能となり、本サービスを目的に来館する利用者も出てきている。

課題

- ◆ 引き続きサービスのPR、特にオンラインデータベースの積極的なPRが必要。
- ◆ 職員自身がレファレンスなどの場面で、オンラインデータベースを十分に活用できるように研修などが必要。

図書館協議会からの意見

- ◆ **インターネット環境やデジタル情報の活用については、今後も進展が見込まれるので、これからも充実を図るよう進めてもらいたい。**

2-2. 大活字本や音訳CDの利用促進（継続）

取り組み内容・実績

高齢者や弱視者に読書を楽しんでもらえるようにするため、大活字本や音訳CDを収集し、様々な方法で紹介して利用を促進した。

1. 資料の充実

- ◆ 大活字本については毎年計画的に新刊と既刊のオンデマンド出版のものを収集しており、26年度は前年度並みの78タイトルを購入した。(25年度は74タイトル)
- ◆ 朗読や講演などの音訳CDは52点購入した。

2. 提供方法の工夫

＜本の展示＞

- ◆ 萩山館では26年11月に大活字本と音訳CDを紹介する「大きな字で楽しむ、聞いて楽しむ」を、中央館では27年2月に大活字を紹介する「大活字本、知っていますか」の展示を行ってPRした。

＜活字の大きさと書体を本のデータに表示＞

- ◆ 大活字本の利用については活字の大きさや書体を選ぶ際のポイントになるため、昨年度から継続して、データに追加情報を加える修正を行っている。今年度はさらに出版社への問い合わせや、字の大きさの計測も行って、情報追加を完了した。

＜新着案内＞

- 25年度に引き続き、大活字本の新着リストを年2回発行した。

成果

- ◆ 大活字本は新着リストや展示などのPR効果や、最近のベストセラーの大活字化の増加などの影響で利用が定着してきている。
- ◆ データへの追加情報を入力することにより、利用者が大活字本を選ぶ際の利便性を向上することができた。
- ◆ 音訳CDも古典や小説、講演などを増やしていくことで、利用が定着してきている。

課題

- ◆ 各館の書庫の大活字本を集めて管理するための保管場所が必要になってきている。集中的な保管を進めることで館を超えた本の入れ替えにつなげていきたい。
- ◆ 音訳CDについては、定評のある発行元がまだ少ない状況にあり、選定にあたっては幅広い情報収集が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 今後、高齢者も増えてくるので、多様な読書の楽しみや情報提供の方法として、大活字本や朗読CDなどの取り組みはとても大事だと思う。

2-3. 視覚障がい者等へのデイジーによる情報提供の充実（継続）

取り組み内容と実績

視覚障がい者への提供情報としてデイジー資料（デジタル音声資料）が求められており、本市においては東村山音訳の会の協力を得て、資料作成を進めている。

（実績）

- ◆ 会員全員を対象に音訳技術、録音技術向上のための講習会を2テーマ13回実施した。
「音訳講習会」 10回
「デイジー講習会」 3回
- ◆ デイジーデータがダウンロードできるサピエに加入した。（ダウンロード実績：30タイトル）
- ◆ デイジー図書の作成 4タイトル
- ◆ デイジー図書の貸出 860タイトル（所蔵127タイトル、借用733タイトル）
（貸出実績：24年度＝543タイトル、25年度＝696タイトル）

成果

- ◆ サピエからのダウンロード運用開始により、借り受け資料タイトルの検索の幅が広がった。
サピエ：日本点字図書館がシステム管理を行う。会員登録により、音声デイジーデータ5万タイトル以上の中から必要なものをダウンロードして利用できる。
- ◆ テープ版利用者の求めに応じて、デイジーの操作説明を行い、利用媒体の切り替えを進めることができた。

課題

- ◆ 音訳資料作成の安定的継続のために、音訳技術等の研修の計画的な実施が欠かせない。
- ◆ デイジー編集は複雑であるため、担当以外が作業するのは難しい状況である。業務を適正に維持するために事務の見直しや職員体制の整備が必要である。
- ◆ 新たな音訳資料の作成はデイジー版が中心となっているため、テープ版利用者にはデイジーの操作説明等メリットを理解してもらうための活動がさらに必要である。
- ◆ サピエをより活用していくためにPRを行う。
- ◆ デイジー資料作成用機器が不足している上、更新が難しい。

図書館協議会からの意見

- ◆ 音訳ボランティアへの各種支援を、今後も充実させてもらいたい。
- ◆ ホームページでのサービス紹介については、他市を参考によりわかりやすく改善してほしい。
- ◆ 作成したデイジー資料については、広く活用してもらう機会のある国立国会図書館の事業にぜひ参加してもらいたい。

3. 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める（一部変更で継続）

取り組み内容・実績

各館とも開館から 20 年～30 数年経過しているため、設備の故障等が目立ってきているが、本庁の管財課、設備管理委託業者、また併設館においては公民館職員との連携・協力により、調整しながら対応を行った。

<中央図書館>

- ◆ 児童コーナーカーペット改修工事

このほか、電気設備工事、天窓ガラスフィルム修繕、玄関床修繕（防滑塗装）やブックポスト修繕（全館分）、目隠しガラスフィルム修繕等を実施した。

<富士見図書館>

- ◆ 敷地内水道管漏水修繕
- ◆ 冷水器故障による買い替え

<萩山図書館>

- ◆ 照明器具修繕（25 年度から継続）

開架フロアの対象箇所が多いため、数年かけて計画的に修繕を実施する 2 年目

- ◆ 児童用トイレ修繕
- ◆ ブックポストの増設

<秋津図書館>

- ◆ 事務室ドア交換
- ◆ 図書館開架部分屋上の防水工事（公民館予算）

<廻田図書館>

- ◆ 蛍光灯安定器の修繕（24 年度から継続）

開架フロアの対象箇所が多いため、計画的に修繕を実施する 3 年目

成果

- ◆ 安全性を高めるための修繕（中央図書館玄関前の滑り止め塗装）や、老朽化対策としての計画的な修繕や緊急対応（水道管漏水修繕）、さらに居心地の良い環境づくりとしての絵本コーナーカーペット張替など、予算に応じて柔軟に実施することができた。

課題

- ◆ 施設の補修については、今後も関係部署と調整の上長期的な見通しを立てて進めていく必要がある。

図書館協議会からの意見

- ◆ 老朽化については早急に対応してもらいたい。

4. 職員体制の充実

4-1. 業務内容に応じた各種職員研修の充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 内部研修

① **日常業務を深めるための研修**（専門知識・技能の習得）

図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）・検索研修（対象：全職員）
著作権研修（対象：全職員）

② **レファレンス研修**

レファレンス課題研修（隔月ぐらいで2問演習問題を出し、調査後口頭で回答）

対象：調査資料係嘱託職員

国立国会図書館デジタル化送信サービス操作研修 1回

対象：レファレンス関係職員

③ **ブックトーク研修 1回**

（小学4年生対象のブックトークについて、職員が講師となって実演指導）

対象：児童担当嘱託職員

④ **「子どもと本を知る講座」 4回**

（ボランティア対象の図書館主催講座。内容により、外部講師を招聘）

児童担当職員・嘱託職員が研修として参加した

2. 外部研修への参加 16回（内、見学会1回）

- ◆ 都立図書館・都内の図書館関連団体が開催する講演会、研修会への参加により、図書館に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

3. その他

- ◆ 嘱託職員向けに図書目録データ作成研修を行い、その後日常的なフォローアップも行ってスキルアップを図ることができた。
- ◆ 特にレファレンスカウンターに入る嘱託職員には、回答に使用した資料やWeb情報についての解説や接客について、随時説明して情報共有を図った。

成果

- ◆ 各担当の嘱託職員への研修機会が増え、業務への理解を深めることができた。
- ◆ 国立国会図書館デジタル化送信サービスの概要、利用法、操作方法の研修を行い、すぐに実践で役立てることができた。

課題

- ◆ 業務の質を高めるためには、継続的な研修が有効であり、効率よく行えるよう計画的に実施していく必要がある。
- ◆ オンラインデータベースの活用について研修が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 今後も新たな状況に対応して、迅速な情報提供ができるように研鑽をつんでもらいたい。

4-2. 市民サービス向上に向けた接遇研修の実施（新規）

取り組み内容・実績

1. 新人への研修

新規採用嘱託職員及び、異動で新しく図書館に配属された職員には4月当初の研修で窓口対応の基本について研修を行っている。

2. 接遇アンケートの活用

人事課の接遇アンケート（年4回実施）の結果を毎回図書館分だけで集計し、全職員に回覧し、情報共有、改善への意識向上につなげている。

3. 庁内研修(外部講師)への積極的な派遣

接遇研修（基礎編・応用編）、コミュニケーション研修、クレーム対応力向上研修に毎回積極的に職員・嘱託を派遣し各自の接遇意識の向上を図っている。

4. 市民意見の共有化

投書や市長への手紙などで寄せられる意見のうち、職員周知が必要なものについては、意見と対応結果を全館の職員で共有するように努めた。

成果

- ◆ 人事課より、接遇アンケートの結果の向上率を評価され、平成 26 年度は廻田図書館が職員表彰を受けた。（平成 25 年度は秋津図書館が表彰）
- ◆ 職員間で利用者対応について情報共有することが定着した。

課題

- ◆ 図書館単独での研修は実施できなかった。
- ◆ 従来の対応では苦情になる事例が増えており、柔軟な対応が必要になってきている。

図書館協議会からの意見

- ◆ 対応に苦慮する事例も増えているようだが、丁寧に対応してもらいたい。

5. 図書館開館40周年記念事業の実施

市民との協働を図りつつ進めてきた図書館事業について、市民の理解を仰ぎ、利用促進につなげるために館内展示や資料作成を行う。(新規)

取り組み内容・実績

東村山市立図書館は設立当初から市民との連携をすすめており、40周年を機に図書館の歴史やサービス内容、市民活動の状況等をパネルにして継続的に展示することで、情報発信を行った。

また30周年記念誌以降の図書館サービスや担当業務の推移、関連団体の現状、統計的な資料をまとめた記念誌を作成した。

<展示の内容>

- ・「数字で見る50年そして図書館の40年」
 - ・「目録・貸出 今昔」
カード目録・逆ブラウン式の貸出記録カードケースを展示した。
 - ・「図書館の発行物とキャラクター」
展示に併せて図書館発行の市民叢書などを市民に配布した。
 - ・「図書館サービスの紹介」
 - ・「読書活動関連団体の紹介」
- *他に東村山ふるさと歴史館作成の写真パネル（中央図書館建設当時の様子など）も併せて展示した。
- *当初作成したパネルは情報量（文字数）が多く見づらい傾向があったので、写真や実物を中心にした物に切り替えた。

<配布用印刷物の作成>

図書館40周年・市制50周年記念「東村山ものしりシート」3種と「読書記録ノート」6種を作成し、各館で配布するほか、ホームページからもダウンロードできるようにした。

成果

- ◆ 図書館の歩みを知ってもらおうとともに、日ごろ目につきにくいサービス内容や関連団体などについて情報提供することができた。
- ◆ 記念資料集は今後の調査・見学・サービスの経緯の把握などに活用できるよう、情報をまとめることができた。

課題

- ◆ 過去の業務の記録・写真などを整理しつつ活用可能な形で保存する必要があると感じた。

図書館協議会からの意見

- ◆ 50周年の折には、市民からも資料を提供してもらいまとめることを考えてもらいたい。
- ◆ 50周年記念誌は、カラー印刷で作成できると良い。